

今週のメニュー

■トピックス

◇平成25年度出前授業を振り返って

■随想

◇日本のお祭りシリーズ（その11） —高取町町家のひなめぐり—

関東学院大学 織 朱實

■編集後記

■トピックス

◇平成25年度出前授業を振り返って

[クリックで拡大](#)

プラスチックが日常の生活に役立っていることを知ってもらいたく、小学校や中学校などで出前授業を行なっています。特に2012年度から中学理科の授業にプラスチックが取り上げられるようになってからは、一般社団法人日本化学工業協会（日化協）、日本プラスチック工業連盟、一般社団法人プラスチック循環利用協会と連携し、「プラスチック教育連絡会」を発足させ、プラスチック授業の参考となる情報提供などに取り組んでいます。

平成25年度の出前授業は、10件、約800名の生徒や先生方にプラスチックの話をさせていただきました。

プラスチック教育連絡会あるいはVEC単独で、プラスチック授業に取り組んできたこの1年間の活動を振り返ってみたいと思います。

日化協が取り組んでいる小中学校・高等学校の先生方を対象としたセミナー「新しい理科カリキュラムに対応した授業法」が今年度は、盛岡、神戸で開催され、プラスチック教育連絡会として協力しました。いずれの日も日曜日を利用してのセミナーですが、約50名の先生方の参加をいただきました。その他の先生方を対象としたセミナーとして、東京都品川区の小中学校の先生方を対象としたセミナー（8月2日）と東京都杉並区の中学校の理科の先生を対象としたセミナー

（2月19日）を開催する機会をいただきました。い

ずれも、プラスチックの話を聞く機会が少ないためか、「大変ためになりました」、「是非授業に取り入れたいと思います」などの感想や、「プラスチックのサンプルを送って欲しい」、「〇〇の内容を取り上げてもらいたい」など要望や質問もいただき、プラスチックの内容をどのように授業に取り込んで行こうかと熱心に考えている先生方の姿を強く感じました。



真剣なまなざしで実験中の先生方

さらに、これまでの出前授業を通してご厚誼いただいている先生から、中学校の理科教育に関する先生方の研究会が、全国的に組織されていることを知りました。折りしも平成25年度は、その研究会が東京で開催されるとのことで、我々の活動を広く知ってもらうためには絶好の機会と考え、出前授業に使う資料等を並べたブース展示を行なうため、早速参加させていただくこととなりました。8月7日から9日、東京都葛飾区かつしかシンフォニーヒルズで開催された全国中学校理科教育研究会の展示ブースで、業界としてプラスチックの出前授業を行なっていることを説明すると、先生方から非常に興味を持っていただき、「是非、わが校で」と、思っていた以上の反響があり、大変有意義な理科教育にかかわる先生方との交流ができました。

その中のひとつに西東京市立ひばりが丘中学校があります。11月25日、28日と2日に分けて、5クラス約170名の生徒にプラスチックの授業を行いました。学校の行事の合間を縫っての授業となりましたが、現場の先生方のスケジュール調整の大変さを感じました。中学校の出前授業としては、東京ばかりでなく、福岡県や香川県からも出前授業のご要望をいただき、それぞれ5クラスと4クラスの生徒のみなさんに、密度の実験を通してプラスチックの違いを知ってもらったり、ビデオを観ながらプラスチック製品の作り方を知ってもらう授業を行いました。長時間立ち続け、時には大声を張り上げる先生稼業は疲れるものです。それでも、「ありがとうございました」の元気な声を聞くと、疲れも吹き飛んでしまいます。



出前授業実験風景

プラスチックに対する興味や正しい知識が、教育の現場に広がって行くことを願いながら、これからも業界の社会的貢献活動として、プラスチックの役立つ情報提供に向け取り組んでいくつもりです。

■ 随想

◇日本のお祭りシリーズ（その11） —高取町町家のひなめぐり—

関東学院大学 織 朱實

日本のお祭りシリーズも、季節を一巡しましたが、まだまだ日本国内には「ほー、こんなお祭りがあったのか！」という心惹かれるお祭りが沢山あります。ということで、もう少しこのシリーズを続けていきたいと思えます。

3月といえば、やはり「お雛様」。[「日本のお祭りシリーズその2」](#)で神奈川県開成町のつるし飾りをご紹介しましたが、今回は奈良県高取町の「町家のひなめぐり」です。こちらは、旧暦のひな祭りなので3月末日まで開催されているお祭りです。高取町は、高取城(豊臣家臣の本田利久の城でもあった)の城下町で、江戸時代からは置き薬の大和売薬で栄えた町で、土佐街道沿いに古い町並みが残っていることでも有名です。



この昔ながらの町並みを利用して、町おこしの一環として、8年前から開催されているのが「町家のひなめぐり」。それぞれのお宅やお店で、思い入れのあるお雛様が、室内や軒先、出窓などを利用して、思い思いの工夫で飾られています。



町家のひなめぐりメイン会場 「雛の里親館」

今回はガラス瓶のリユーズのシンポジウムに参加するついでに高取町まで足を延ばしたので、平日の午前中の訪問でしたが、それでも普段は「人があまり来ないだろうな」(笑)と思われる閑静な壺阪山駅(近鉄吉野線)は、ハイキング姿のシニアの方で賑わっていました。皆さん、ひなめぐりと西国霊場33所の第六番でもある壺阪寺をセットで回る予定だそうです。



壺阪寺「雛曼荼羅」

私も、まずは町のはずれにある壺阪寺の「雛曼荼羅」からスタート。壺阪寺は、浄瑠璃歌舞伎の「お里古市」の舞台になったお寺で、眼病封じのご利益のあるお寺。ここの大講堂では、平安時代、鎌倉時代の仏像とお雛様がコラボしており、異質な組み合わせで、見事な空間が作られていました。そこから坂を下って、高取土佐街なみにある町家の「ひなめぐり」へ。100件近いお宅でお雛様が飾られて、自由に見せて頂けるようになっていました。そ

れぞれのお宅で、お雛様のいわれや、思い入れが色紙や短冊に書かれていて、立ち止まって読んだり、おうちの方の説明を伺って、お話をするのが楽しい「参加型のお祭り」です。お雛様を見せてくださるおうちの方は、ご高齢の方が多かったのですが、「うちのお雛雅みていってよ!」、「こうやって人と話す機会がないと家に閉じこもってしまうばかりなので、楽しいですよ」「見てくださった方がこうやって写真を送って下さるのよ」等々このお祭りを本当に楽しんでいらっしやるようでした。



江戸時代のお雛様



お雛様と笑顔のお母さん

印象深かったのは、火災の焼け跡の中から発見されたというお雛様。「無傷で見つかったの。とても縁起の良いお雛様だから、あやかっ」とのことでした。色紙には、年末に火災でお宅が全焼してしまったけれども、焼け跡の中から御嬢さんが生れたときに、亡くなったお母さまが大阪まで行って買い求めお祝いをしてくれたお雛様が綺麗な姿で発見されたエピソードが書かれていました。「亡き母がしっかりと火事の中で守ってくれていたように思われてなりません」と締められていましたが、やはり何かお雛様の不思議な力を感じます。



焼け跡の中から発見されたお雛様

お祭りシリーズで、いろいろな町を訪問すると色々な出会いがあるのですが、今回も「ひなめぐり」の最後にとっておきの素晴らしいお雛様コレクションを、高取町の陶芸家の山本義博さんのお宅で見せていただくことができました。本当は、この日はまだ公開する予定ではなかったところを、飾り窓のお飾りを見ていたら「東京からわざわざいらっしゃったなら、是非見ていってください」と、お抹茶と奥様お手製のぽんかんの砂糖漬けをお茶うけにいただきながらコレクションをじっくり見せていただくことができました(山本さん本当に有難うございました)。

古くは江戸時代から、明治、大正と風情のあるお雛様とお道具のコレクション。「元から家にあったお雛様に、30年くらいかけて集めたお雛様」ということですが、「よくぞ、ここまで集まった！」というくらいに見事なお雛様とお道具たちが、古い町家の空間に素敵にレイアウトされています。「不思議とお雛様が集まってくるのですよね。呼ばれているような感じでしょうか」というのも納得です。お雛様好きな人のところに、お雛様も集まってくるのでしょうか。



陶芸家 山本義博さんのお宅のお雛様

高取町のひなめぐりは、色々なお宅でそれぞれの思い出のあるお雛様が語りかけてくれるような町のイベントです。古い町家の中に上がらせていただくというのもなかなかできない体験なので、外国の方ならさらに大喜びしそうなお祭りですね。春の奈良の風に吹かれながら、色々なお雛様を見せていただき、すっかり目の保養をさせていただきました。

今回は、東北の奇祭として有名な山形鶴岡の「化け物祭り」。こちらは、胃腸をしっかり整えてからではないと大変なお祭りだそうですので、備えないと(うまく仕事の折り合いがつけば!)
ブログにも記事をアップしているので良ければ見てください。



- ⇒ [ブログはこちらです。](#)
- ⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)

■ 編集後記

先週、北へ向かったら思わぬ雪に遭遇し、珍しい雪の松島を観ることができました。それでも、「暑さ寒さも彼岸まで」とはよく言ったもので、例年より寒さが長引いているといわれる今年でも、彼岸を過ぎたら急にさくら開花のニュースが聞こえてくるようになってきました。トピックスで取り上げられた出前授業ではありませんが、さくらと聞くと入学式を連想します。あるいは、歳を重ねてきた最近では、寒さに震えながらお酒片手に夜ざくらを眺めた情景が思い出されます。今年はどうなさくらと出会えるか楽しみです。(HI)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp